

持続可能なMM教育から始める交通まちづくりの縁

川西市、牧の台小学校区コミュニティ推進協議会、兵庫県阪神北県民局、能勢電鉄(株)、阪急バス(株)、牧の台小学校、松村 暢彦(愛媛大学)、猪井 博登(大阪大学)、川西市公共交通会議、川西市教育委員会、公益財団法人ひょうご環境創造協会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

背景

川西市のMMは、平成14年度に先駆的に取組んできた。その後、平成18年度より小学校教員との密なコミュニケーションを通じて、各小学校区の特徴を反映し各学年に対応できる内容のMM教育を学識者、行政、公共交通事業者の協働により、継続的に実施してきた。しかし、交通問題から始まるまちづくり、バスの利用者数の増加そして住民が主体的となったMMには、発展しなかった。

上位計画

MMの実績を踏まえて、第5次総合計画、そして都市計画マスタープランにMMの推進を明記することで、計画的にMMを推進できる環境に整えた。

かわにし交通ピースプラン

人口減少等を迎える中、住民主体の公共交通によるまちづくりを推進するために、「川西市公共交通基本計画（かわにし交通ピースプラン）」を平成26年度に策定し、MMを重要な政策の柱として改めて位置づけた。そして各地域（概ね小学校区）で住民主体による地域公共交通実施計画の進め方等を実践編等で示した。

住民を主体とした組織化と活動の横展開

住民主体のMMを展開していくために「地域公共交通実施計画」の支援制度を設けた。そして、MM教育を実施している地域からMMの縁が順次拡大しつつある。

住民主体の発意から意識の醸成

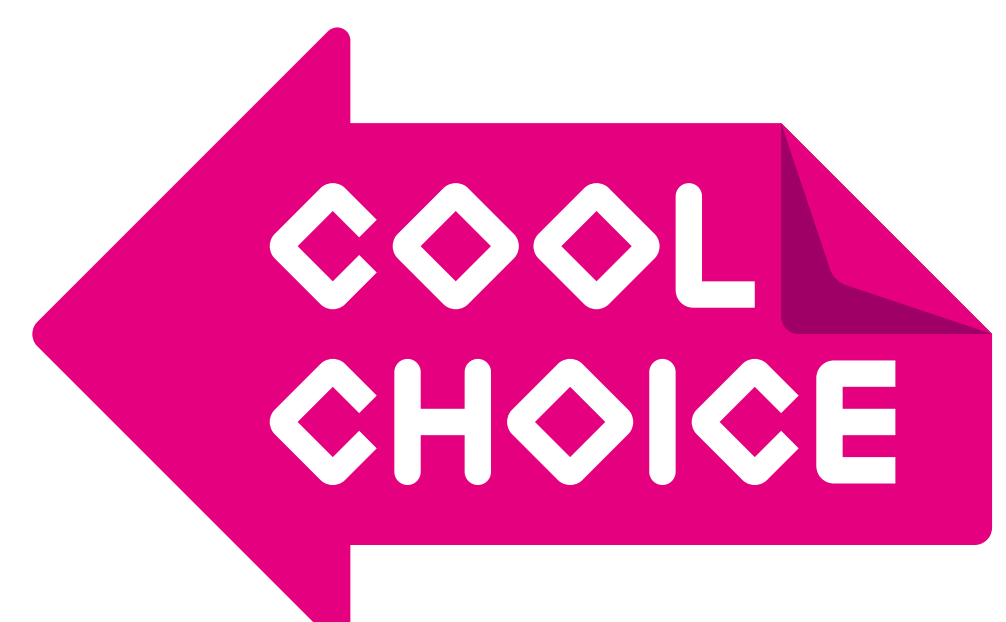
地域のシンボルである小学校で、MM教育を継続実施した縁から、その内容を知った保護者が核となり住民主体による交通まちづくりの発意が芽生えた。そこで学識者、市、そして事業者等の協働により、人口が1.1万人で高齢化率が41%を超えた地域で、保護者の繋がりによりMMの縁がさらに拡大し、住民主体の交通まちづくりの意識が醸成した。主な取組内容は、新たに四季折々のバスに乗ろうキャンペーン（3世代お花見、ビアガーデン等）の開催、子育てサークルによる幼児MMを実施し地域の文化祭で発表会を開催した。小学校教育の中で持続可能なMM教育を継続実施した縁から、世代間バランスのとれた、こころに残る楽しい交通まちづくりに繋がった。

各種支援等

MM教育は、松村教授、市、能勢電鉄、阪急バス、兵庫県宝塚土木事務所が実施し、交通エコモ財団の学校支援制度を活用した。

住民主体のMMは、松村教授、猪井助教、市、能勢電鉄、阪急バスが実施し、ひょうご環境創造協会の環境省補助を活用した。

このような取組は、国民運動の「COOL CHOICE」活動にも繋がり、MM教育（学校MM）は「持続可能な発展のための教育（ESD）」に関連した内容としても実施しています。



川西市における行政計画とMMの取り組み

平成年度	行政計画	小学校におけるMM教育の実施状況	牧の台小学校区		その他
			牧の台小学校でのMM	行政主体のMM 住民主体のMM	
12				・バス運行開始 (地域住民が沿線住民と調整しバス停の位置を決定)	
13					
14					・MM(TFP)開始 清和台地域他
15					
16					・居住地MM開始 ・2005年清和台地域で日本初「買い物キット」を使ったMM
17					
18		松村教授、能勢電鉄			
19					
20			・松村教授 ・能勢電鉄 ・阪急バス ・川西市	・予約乗合交通の社会実験 ・アンケート ・ワークショップ (地域の窓口はA)	
21					
22	MM教育等の実績	・夏期教員研修開始 ・各学校、各学年に応じた、きめ細やかなMM教育開始 ・1校で実施(計5回)			MM教育を体験した児童の保護者が集まる
23		・夏期教員研修 ・4校で実施(計9回)	・松村教授 ・能勢電鉄	・勉強会 ・ワークショップ等 (地域の窓口はBに変更)	転入者MM開始
24	・第5次川西市総合計画策定 ・川西市都市計画マスタープラン改定	・夏期教員研修 ・5校で実施(計10回)	・阪急バス ・川西市		清和台小学校でMM教育開始
25	・川西市公共交通基本計画策定委員会設置	・夏期教員研修 ・4校で実施(計10回)			
26	・川西市公共交通基本計画策定委員会大和部会(牧の台小学校区)設置 ・川西市公共交通基本計画策定	・夏期教員研修 ・5校で実施(計11回)			窓口がコミュニティに変更 大和地域公共交通協議会設置 ・標語の募集 ・横断幕の掲示 ・乗換時刻表の作成 ・バス便り発行 ・幼児MM ・バス利用状況調査 ・四季折々の三世代交流イベントを開催(さくらカフェ、公園ウォーク、ビアガーデン、ワークショップ)等
27	・川西市公共交通会議設置	・夏期教員研修 ・新任教員研修 ・6校で実施(計17回)			住民主体のMMが清和台地域に広がる 清和台地域公共交通協議会設置

こころに残る楽しい交通まちづくりMMの実施
持続可能なMM教育の実施

持続可能なMM教育から始める交通まちづくりの縁

川西市、牧の台小学校区コミュニティ推進協議会、兵庫県阪神北県民局、能勢電鉄(株)、阪急バス(株)、牧の台小学校、松村 暢彦(愛媛大学)、猪井 博登(大阪大学)、川西市公共交通会議、川西市教育委員会、公益財団法人ひょうご環境創造協会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

MM教育の内容

「私たちの川西市」と題して1～6年まで対応できる内容を、松村教授編、能勢電鉄編、阪急バス編等と実施して、その成果は、地域に情報発信をしている。また、小学校の教諭とコミュニケーションを図り交通まちづくりから環境学習を実施し、食育に繋がる内容では、兵庫県漁連等と協働実施している。一方、平成22年度からは社会科の教員研修を兵庫県と共催し、自治体職員等も参加できるように、MM教育の普及にも取り組んでいる。



交通まちづくり

MM教育を体験した児童の保護者から交通まちづくりの縁が広がり、松村教授、猪井助教、牧の台小学校区コミュニティ推進協議会、市、阪急バス、能勢電鉄と協働し、地域のお母さんが中心となった交通まちづくりに取り組んだ。

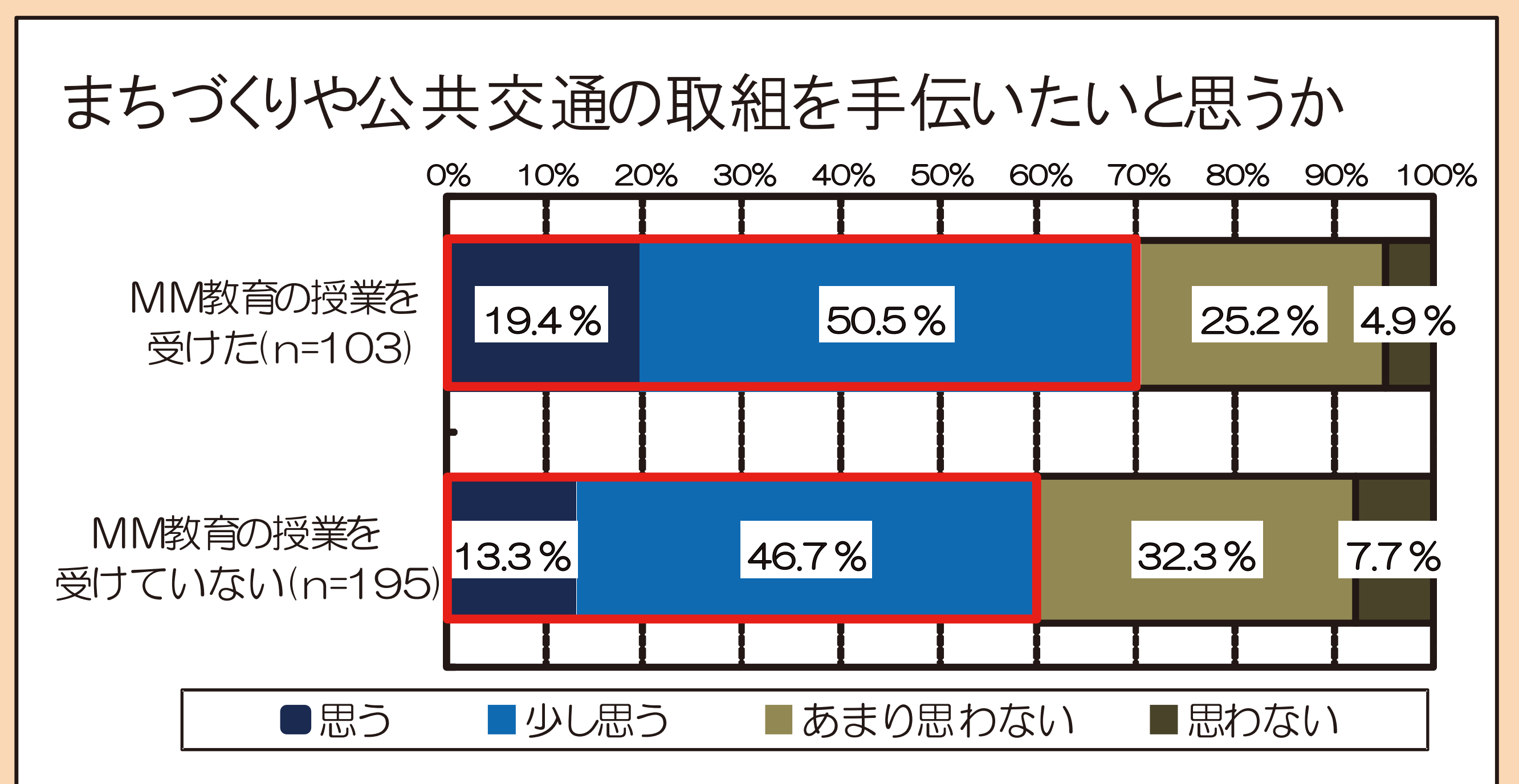
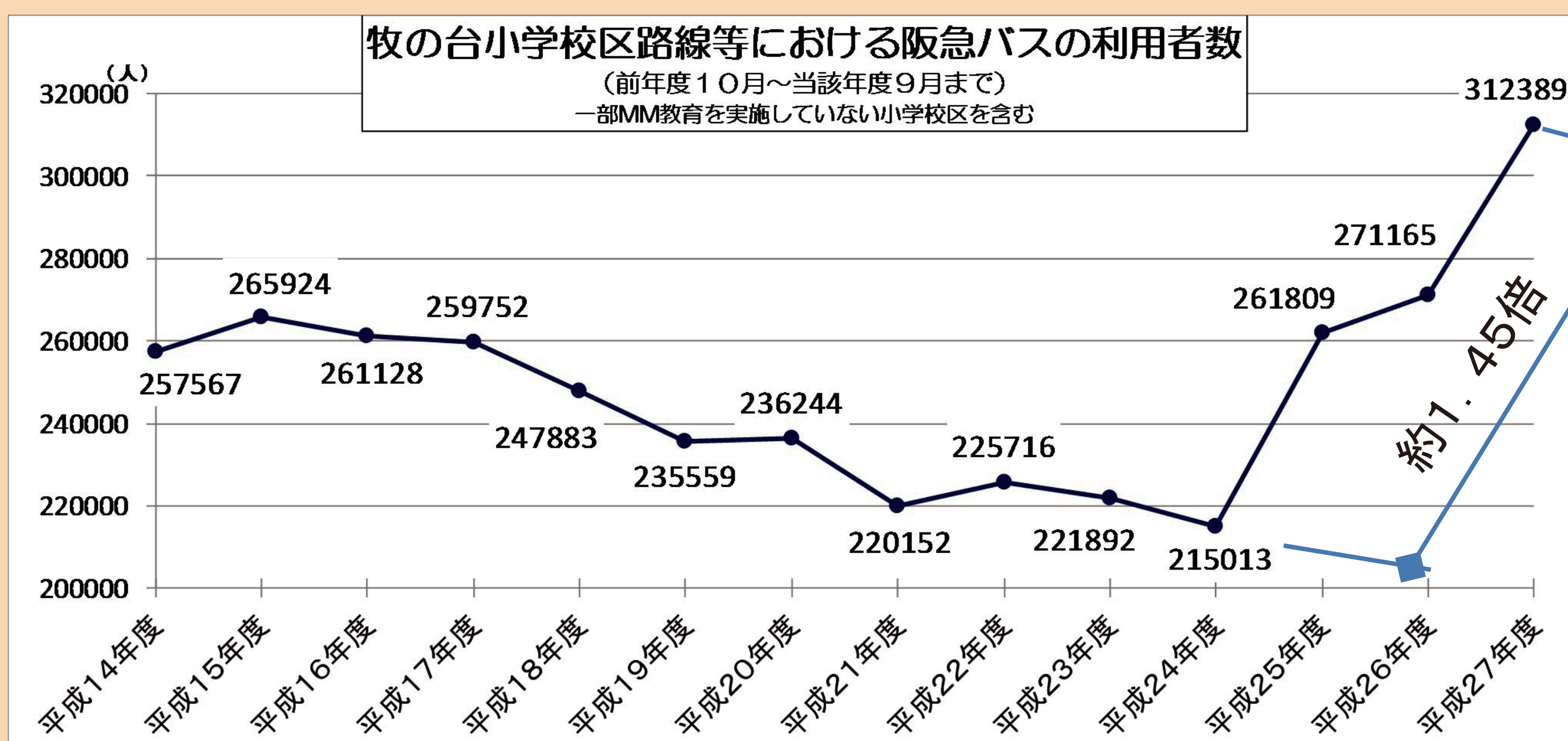
主な内容は、WS、地域のお母さんによる手書きポスター、能勢電鉄と阪急バスの定期サイズの乗換時刻表の作成、発車オーライの発行、地域の文化祭で公共交通カフェの開催、四季折々のイベント実施、幼児サークルを対象に幼児MMを実施し、地域の文化祭で発表会を行い、住民主体のMMを地域で楽しんだ。



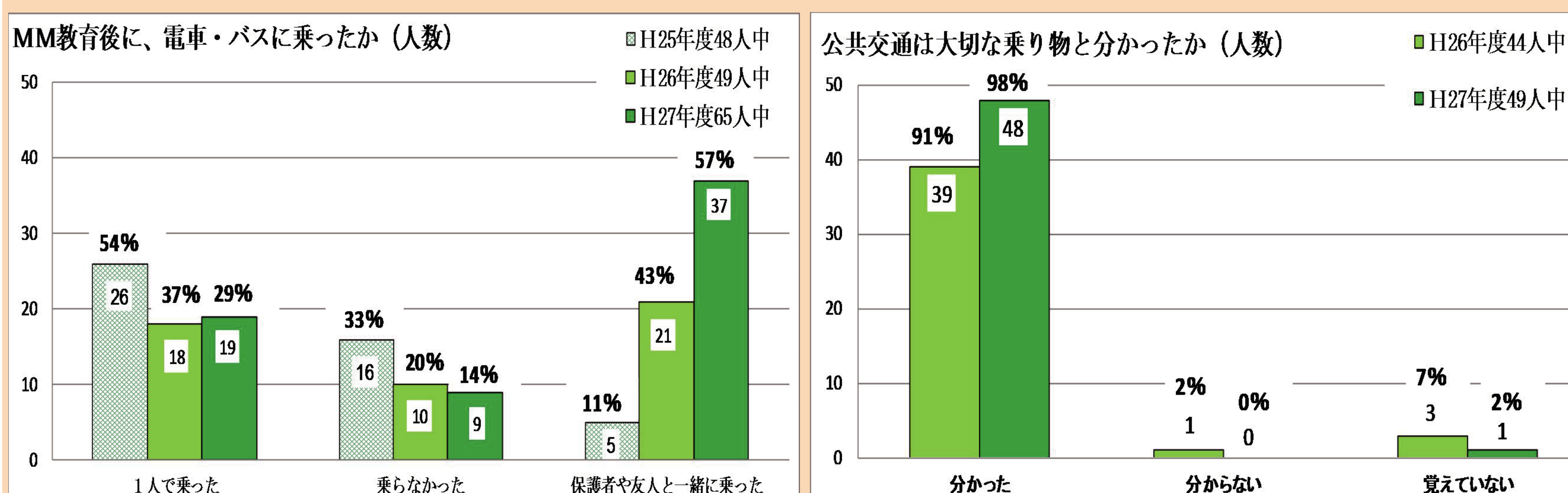
効果

学識者・市・事業者等の協働により、持続可能なMM教育を小学校でコツコツと実施した結果、各行政計画でMMを明記し、MM教育で地域の縁をつくった。その結果、交通まちづくりが地域に広がり、住民主体のこころに残る楽しいMMに繋がり、以下のような効果等が表れた。

【MM教育実施後3～6年後のアンケート結果】

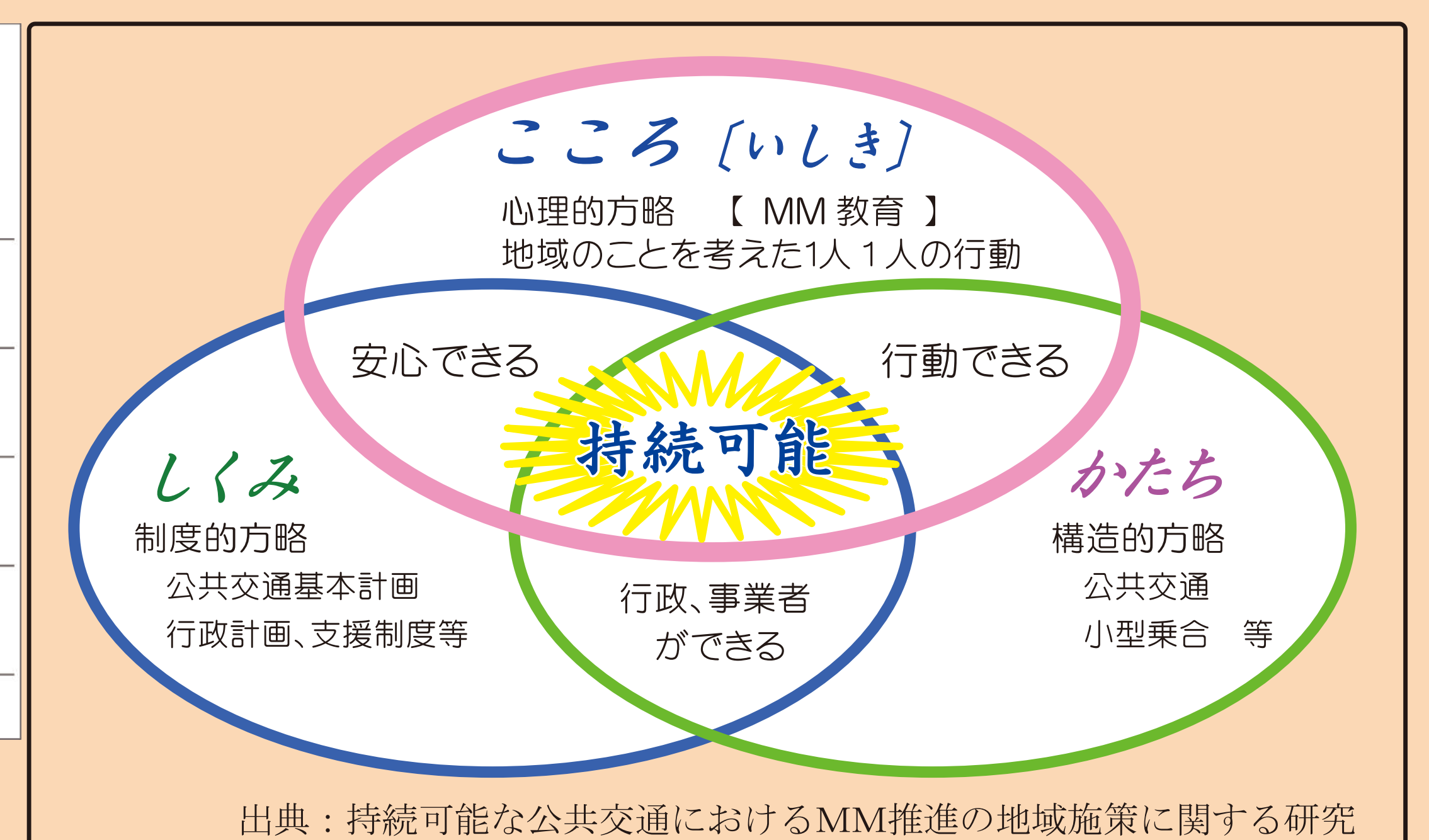


【卒業時のアンケート結果】



H25・26年度卒業生は2～5年に毎年MM教育を実施。H27年度卒業生は2～4年そして6年にMM教育を実施。

郵送調査952人 回収率33.1% 平成26年3月実施



出典：持続可能な公共交通におけるMM推進の地域施策に関する研究